スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道 余市町

自 治 体 名 ： 北海道余市町
担 当 課 名 ： 教育委員会　学校教育課
電 話 番 号 ： ０１３５－２１－２１３８

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

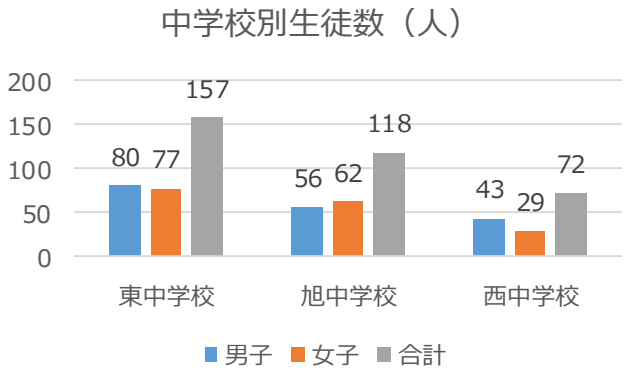
面積	141 ㎢
人口	16,951 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	347 人
運動部活動数	13 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置していない
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

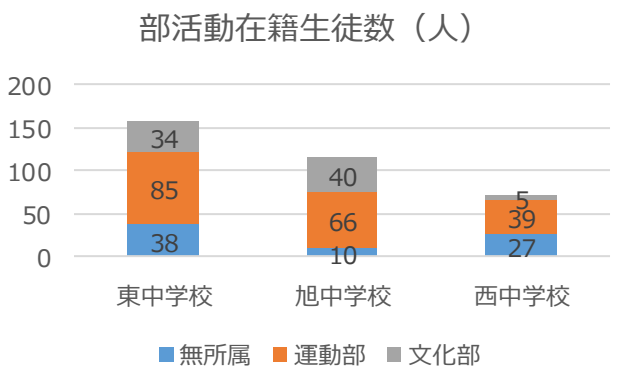
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

余市町では、他の自治体と同様に人口減少、少子化により部活動及び教員数の減少が進んでおり、生徒が本来希望しているスポーツ活動ができない場面が散見され、また、競技経験のない種目を指導することが負担になっている教員が存在している状況にある。

一方では、熱心に指導している教員もいることから、部活動の地域移行を進めるために外部の部活動指導員の他にこれらの教員を兼業兼職の地域指導員として活用している。

人数の多い団体競技(軟式野球、サッカー)は単独校での活動がままならないことから学校部活動から地域への移行が進んできているが、その他の競技(バスケット、バレー、バドミントン)においては、現段階で単独校での大会参加ができる状況にあるため、学校間の交流や地域移行に向けた具体的な動きは遅い。



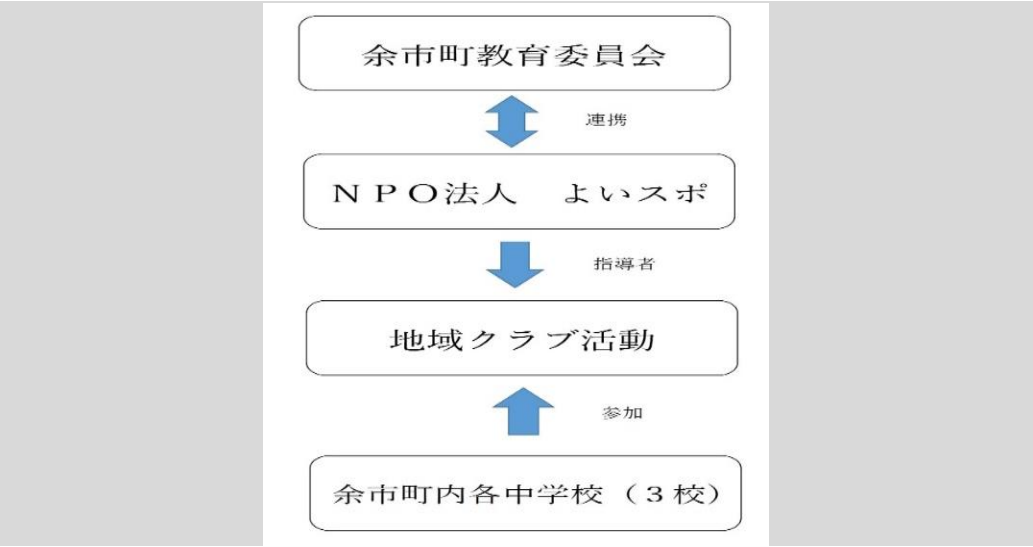


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・学校教育課（部活動の地域移行に係る業務全般）
・社会教育課（スポーツ振興全般を担当、体育館、競技場等の運動施設を所管）

◉首長部局

・総合政策部政策推進課（庁内の連絡調整、イベントに係る企画提案及び外部からの窓口・渉外業務）
・総務部財政課（予算措置、ふるさと納税の活用を検討）

年間の事業スケジュール

令和７年４月	地域部活動体制整備委託業務を締結
令和７年５月	広域連携に向けた検討会
令和７年６月	関係者による連絡会
令和７年７月	広域連携に向けた協議
令和７年10月	委託業務の中間検査
令和７年11月	関係者による連絡会
令和７年12月	受益者負担についての検討
令和８年１月	アンケート実施（小学6年生、部活動参加生徒及び保護者）
令和８年２月	実証事業の完了検査報告

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	6 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（ 1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		5 クラブ
全体の指導者数	20 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ブルータス	総合型地域スポーツクラブ	軟式野球	月 16 回	17～19時	中1：6 中2：8 中3：6	4月～3月	町内小中学校施設及び社会体育施設	6 人	1 人（内、兼務1人）	年会費24,000 円	地域クラブ（中体連を含む）
FC余市	総合型地域スポーツクラブ	サッカー	月 8 回	18～20時	中1：8 中2：1 中3：0	4月～3月	町内小中学校施設及び社会教育施設	7人	1 人（内、兼務0人）	年会費12,000円	例） 中体連：部活動 その他：地域クラブ
よいスポクラブ	総合型地域スポーツクラブ	女子バスケ 男子バスケ(新) ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ(新：２クラブ)	月４回	9～12時（休日）	10名／各クラブ	4月～3月	町内中学校施設	各1人	0人	0円	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●11月30日　部活動地域移行Do-STARTプレイボールイベントを北海道、株式会社ラルズと共催で開催（対象：小学5年生～中学生の野球部員）

2.実証内容と成果

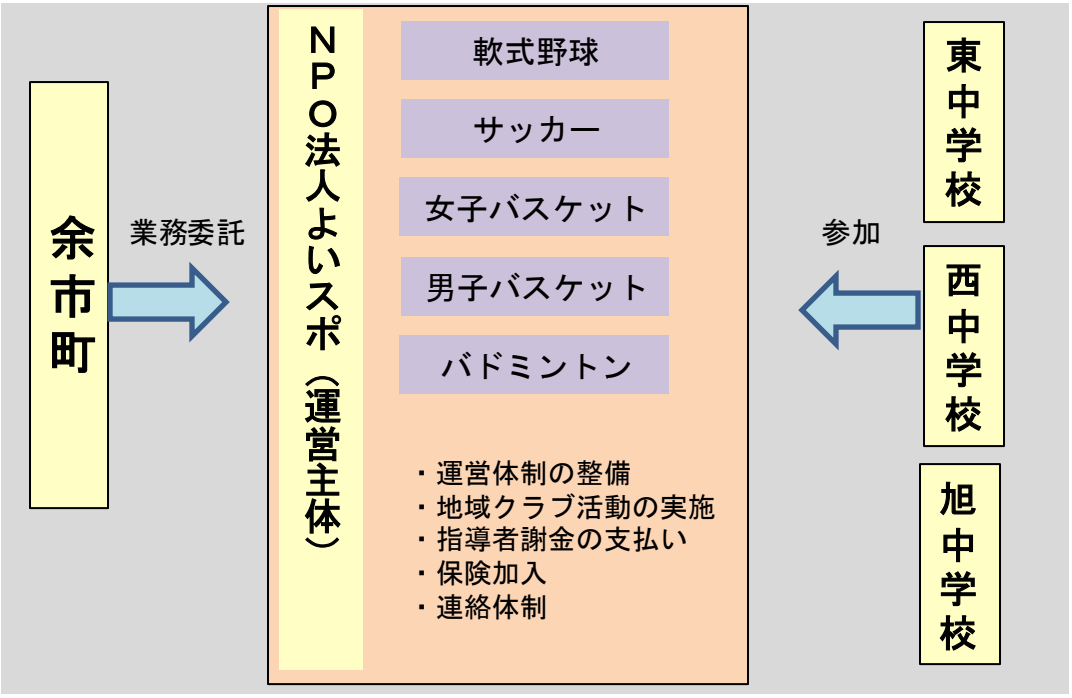
スポーツ庁

主な取組例

●活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、野球、バスケットボール、バドミントン
運営団体名	NPO法人　よいスポ
期間と日数	サッカー：月8回程度 野球：月16回程度 バスケットボール：月６回程度 バドミントン：月4回程度
指導者の主な属性	NPO法人　よいスポ
活動場所	町内の社会体育施設、中学校等
主な移動手段	地域クラブによる送迎、自己移動
１人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：12,000円 野球：24,000円 バスケットボール、バドミントン：0円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者（コーディネーターを兼務）

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

●責任者補佐（副コーディネーターを兼務）

役割：活動において、統括責任者の補助を行う

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・広域での地域部活動コーディネーター２名を配置し、地域部活動指導員、保護者、市町村、学校との連絡調整、指導助言を行う。

・運営組織の整備や人材の確保、参加者管理、会費徴収、参加者・指導者への連絡、会場の確保・調整、会計業務を行う。

取組の成果

コーディネーター2名（正・副）を配置したことにより、関係団体との連絡調整、指導者の配置、活動場所の調整を円滑に行うことができた。定期的に指導助言を行い、活動量と質を確保することができた。

各スポーツ団体、地域のネットワークを生かし新たな人材を確保することができた。事務局員を配置し、参加者・保護者への連絡調整や会費の徴収等、円滑な運営を行うことができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

月1回ごとに各クラブを巡回し、活動状況のヒアリングを参加者・指導者に行い、保護者へのアンケートを実施した。指導者・事務局・コーディネーターによる運営会議を2か月に1回定期的に開催し、課題の共有と運営に係る助言・打合せ、大会参加に係る調整など実施した。

今後の課題と対応方針

広域（積丹町、古平町、余市町、仁木町、小樽市）による活動を行っているため、移動手段や会場確保の新たな仕組みづくりが必要である。各市町村、他団体との課題共有と連携強化を図り、活動量と質を確保できるよう運営に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・地域の各種競技団体や指導者ネットワークによる地域指導員の確保
・指導者の資質向上に向けた各種研修会への参加

地域部活動指導員

20名

地域部活動指導員の年齢構成

10代	2名
20代	2名
30代	4名
40代	7名
50代	3名
60代以上	2名

登録者属性

男性　19名
女性　1名　計20名
地域の指導者によるネットワークからの紹介、元部活動顧問の経験のある教職員、運営母体である総合型スポーツクラブ（よいスポ）の指導者など

種目

・軟式野球
・サッカー
・バドミントン
・バスケットボール

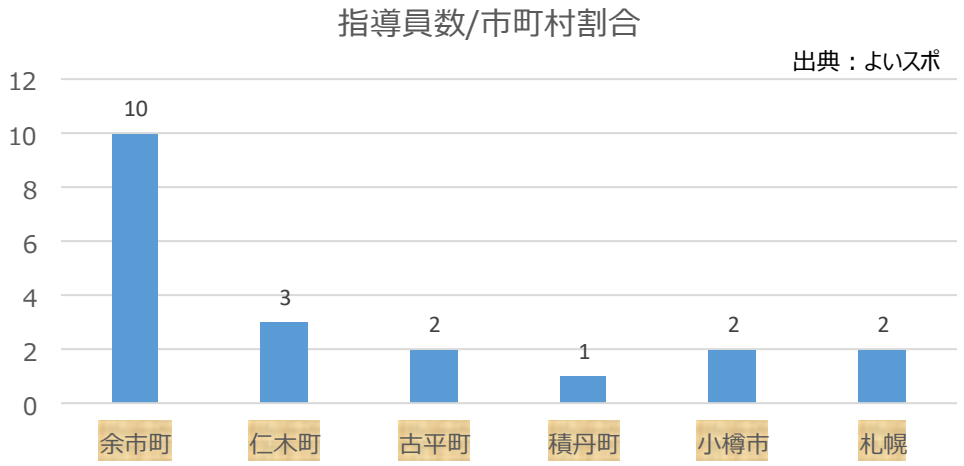
資格有無

・軟式野球
　有資格者3名
・サッカー
　有資格者5名
・バスケットボール
　有資格者2名

取組の成果

・地域移行へ向けた広報誌を地域へ定期的に配布、SNS等で情報発信し、10代から70代まで計20名の指導者を確保することができた。また、活動スケジュールの調整・会場確保門指導者へ迅速に共有することで、多くの指導者を配置し活発なクラブ活動を行うことができた。

・参加者と指導者を含めた研修会への参加、指導者向けのセミナーを受講し、指導者の質を高めることができた。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【指導者コーチング研修・野球教室】
・対象　指導員及び選手
・目的　専門指導による指導員・選手の技術向上を図る
・工夫した点　練習メニューの取り組み方や意識などを指導員・選手ともに見聞きし学ぶ
【指導者養成セミナー】
・対象　地域指導員
・目的　選手たちの運動能力を伸ばすトレーニング、メンタルヘルスを学ぶ
・工夫した点　科学的な根拠に基づいた教養、指導員の意識改革

指導者研修の参加実績

【指導者コーチング研修・野球教室】
・開催日：12月22日
・開催回数：1回
・参加人数：25人
【指導者養成セミナー】
・開催日：2月11日
・開催回数：1回
・参加人数：10名

受講者の声

【指導者コーチング研修】
（指導員）
・野球動作の中で、着目するポイントが膝部であったり、普段の歩行姿勢からであったりと新鮮であった。
・個々の体に合ったコーチング法が勉強になった。
（選手）
・初めて体験するメニューが多くて緊張したが、これからも頑張りたい。
・普段の歩行姿勢や体の部位を意識する大切さを教わった。
【指導者養成セミナー】
（指導員）
・大会等で選手の運動能力を発揮するために、緊張時のリラックスする手法や科学的な選手へのメンタルアプローチを学べた。

今後の課題と対応方針

定期的な指導者研修を継続して実施し、様々な角度からアプローチできるよう選手の成長につながる研修を模索していく。技術向上に偏ることなく、思春期・成長期である選手たちのサポートを指導員ができるよう意識の共有・徹底に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

学校との連携を強化するため、各学校への訪問ヒアリングを定期的に実施し、各課題の共有と学校と地域クラブの連携強化に取り組んだ。

運営母体である総合型スポーツクラブ（よいスポ）が運行するバスと連携し、選手の送迎を試験的に実施した。

取組の成果

部活動地域移行に係るクラブ広報誌を定期的に配布し、生徒への周知、保護者への情報提供を行うことができた。

他団体と連携し、町内3小学校開放事業による会場の調整を円滑に行うことができた。また、中学校の体育館を借用し効率的に会場を確保することができた。

活動拠点への送迎を実施し、保護者の負担を軽減することで、選手たちの積極的な参加につながった。



バス等の運行実績

・日数　　120 日
・利用者数　　770 人
・運行経路
余市旭中～余市大川小前～なると屋前～ホームセンターナカイ前～黒川小学校～林病院前～沢町小学校

バス等の運航経費・収入

・人件費
329,600円（R6.4月～R7.1月）
・燃料費
430,762円（R6.4月～R7.1月）
※利用料は徴収していない。

今後の課題と対応方針

生徒の送迎については、広域・複数の市町村からの活動場所への移動のため、限られた範囲での試験運行となっている。乗車地点によっては、選手の乗車時間が大きく変わるため、今後、保護者の協力を得ながら検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保③　／　ウ：関係団体・分野との連携強化②

取組事項（イ）

・効果的な練習方法、一貫教育について、地域部活動指導員間の情報共有と連携強化
・クラブ指導者ネットワークによる地域部活動指導員の発掘と確保

取組の成果（イ）

クラブ指導者間のネットワークを活用して地域部活動指導員を確保し、学校側からの休日部活動の要請に応えることができた。

毎月、コーディネーターと地域部活動指導員のミーティングを開催し指導員間の生徒への指導に統一性を持たせることができた。

事前にコーディネーターが月ごとの練習予定日を作成し、各地域部活動指導員へ指導可能日を打診することで練習日、練習時間、練習場所の確保を円滑に行うことができた。

取組事項（ウ）

・学校の部活動指導者（顧問）との協調を図る。
・地域の各種競技団体と指導員の確保や練習場所の調整を行う。

取組の成果（ウ）

学校長、部活動顧問教諭、コーディネーター、地域部活動指導員の4者による運営・指導に係る協議を適宜行い、課題の共有や改善に向け取り組むことができた。

地域のスポーツ団体、少年団等の指導者等と随時打合せを行い、地域部活動の推進への理解を深めていただくことができ、また練習場所についても事前にお互い調整を図ることができた。

今後の課題と対応方針

現状は、学校のクラブ活動のすべてを指導できる体制にはなっておらず、一部競技については兼業兼職の教職員に頼らざるを得ない。更なる指導員の確保と質の確保（有資格者または研修によるライセンス獲得）を図っていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

比較的多人数を要する団体競技（軟式野球、サッカー）について、複数校による合同クラブや周辺自治体の生徒を加えた地域部活動に取り組んだ。

各自治体の役割

余市町（教育委員会）が中心となり、近隣町村の教育委員会を通して各中学校に働きかけ、生徒の運動機会を確保した。

また、実施団体（よいスポ）が車両を用いて生徒の移動を行えるよう、使用した車両に係る経費（リース代、ガソリン代）の一部を余市町が負担した。

移動手段

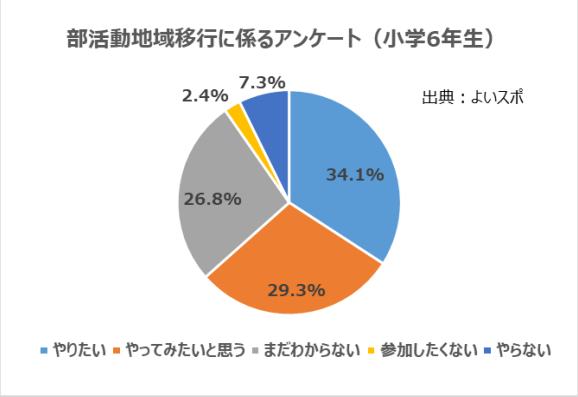
基本は各自が確保するものであるが、近隣町村は過疎化が進み公共交通機関も十分整備されていない。そのため、移動距離・移動時間が長くなる・移動手段がない生徒については実施団体（よいスポ）がリース車両を用いて生徒の移動をサポートした。

事務局運営の方法

学校関係者への聞き取りや、生徒・保護者への希望調査を行い、受け入れ体制を確立した。車両の配置の関係上、活動当日の出欠についてあらかじめSNS等で学校・生徒・保護者で齟齬が生じないように取り計らった。

取組の成果

余市町近傍の町村においては人口・生徒数ともに余市町より少なく生徒の希望通りの部活動が行えていなかったが、軟式野球やサッカーにおいてそれらの生徒を受け入れ地域部活動ができた。また、来年中学校に入学する生徒・保護者へのアンケートでも、活動場所があればやりたいという希望が多かった。



今後の課題と対応方針

今後は生徒数の減少により他のクラブも広域的な取り組みが求められる可能性が高く、それに伴った生徒の移動手段の確保が課題となる。自治体間で協議を進め、応分の負担（保険、車両代など）を近隣町村に求めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

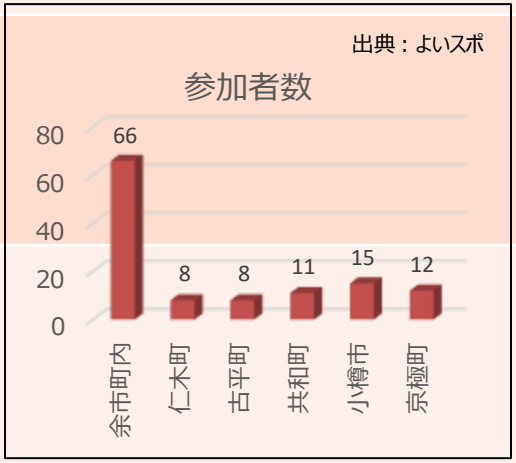
●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

北海道【Do-START】
北海道教育庁、後志教育局、余市町、北海道日本ハムファイターズ、㈱ラルズ、大塚製薬株式会社、NPO法人よいスポ共催で官民連携による「地域スポーツ連携・協働再構築推進プロジェクト」のプレイボールイベントを開催した。

活動の詳細

参加人数	120 人	指導者数	10 人
属性	地域指導員		
具体的な内容	イベントセレモニーを経て、北海道日本ハムファイターズOBの鶴岡氏、ファイターズアカデミーの須永氏、市川氏による少年野球教室を実施した。		
子供の声	● プロの選手を間近で見て緊張した ● 初めて教わることがたくさんあった ● また、たくさん教えてほしい		
関係者の声	● プロ野球選手を近くで拝見して、刺激的なイベントだと感じた ● 教わる子供たちの目がとても真剣なまなざしであった ● 地域移行が町民に広く周知される貴重なイベントとなった		
運営経費	講師・指導スタッフ交際費 6,000円		



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実②

取組の成果

地域クラブチームとして近隣町村で広域連携して組織している軟式野球クラブ（ブルータス）23名が、各中学校（余市東、余市旭、余市西、美国中、古平中、仁木中）にて中体連壮行会を経て、初めての中体連大会への参加を果たすことができた。

このことが地元の地方新聞に写真付きで大きく報道されたため、生徒・保護者のみならず、近隣の自治体や学校関係者から問い合わせも多く寄せられ、地域クラブ活動の今後の益々の発展に期待しているところである。

後志地区大会の結果は、１回戦で１対０で見事勝利、２回戦は１対８で力及ばず敗戦となったが、選手全員、特に中学３年生にとっては中学１年生の時から練習に取り組み最初で最後の大会で同じ中学生と競技できること、そして１勝できたことが何より大きな喜びとなった。

観客席で見守っていた保護者の方からも、子どもたちが好きな部活動を続けられて良かったと感謝の言葉をいただき、地域クラブ活動の励みになった。

今後の課題と対応方針

進学する中学校に希望の部活がない場合や、地元の町内にも活動するクラブがない場合であっても、余市町に誰でも加入できる地域クラブがあるということを近隣の町村の生徒にまで周知することができ、大きな成果が得られたと考えている。軟式野球（ブルータス）の効果が他の競技にも波及するように、啓発活動に努めていく。

実際にパンフレット等で様々な機会に周知を行っており、サッカーにおいても近隣の生徒が参加し、日々の練習に取り組み中体連大会を目指している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

クラブ運営に係る収支構造の可視化を実施し、持続的なクラブ運営に向けた財源の確保の検討、公的資金のバランスについて検証を行った。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・業務災害（指導員）保険料　70,000円
・車両（選手送迎用）保険料120,000円
・事務用品　30,000円

※運営母体の総合型スポーツクラブ「よいスポ」のホームページ維持、事務経費、オフィス機器、通信費は計上していない

■ランニングコストの分析　（R6.4月～R7.1月）

消耗品	492,000円
指導員謝金	2,100,000円
コーディネーター人件費	2,163,000円
車両費リース	1,481,000円
車両燃料費	430,000円
支払手数料	30,000円
研修費	20,000円

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

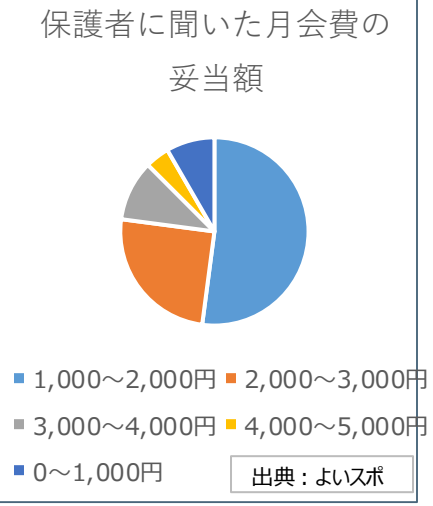
経費	イニシャル　220,000	財源	受益者負担　360,000
	ランニング 6,716,000		町委託料　5,876,000
	計　6,936,000		クラブ資金　700,000
			計　6,936,000

地域部活動の業務に係る経費約700万円のうち受益者負担金とクラブ資金を合わせても100万円であり経費のほとんどが町委託料となっている。公的資金無しで参加生徒数70名（野球20名、サッカー20名、その他30名）で運営すると仮定すると、生徒一人年会費89,000円、月額7,400円となる。

収支バランス

小学6年生の保護者アンケートでは、クラブ活動費（月会費）の負担額は1,000円から3,000円が妥当という意見が7割を超えている。生徒一人月3,000円に抑えるには、クラブ参加生徒数を150名に増やさなければならないが、それに伴ってランニングコストも上昇し、また指導員の確保、練習場所の確保など新たな問題も生ずる。

したがって、当面は町からの助成が必要と考えている。



2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

余市町は、参加費用負担（受益者負担）については、応分の負担が必要なことは学校関係者や保護者には説明しているが、その額については試算していない。

現状、参加費用を徴収していない学校部活動が多いことから、地域部活動への移行に伴っていきなり負担を求めることは、逆に地域移行への進捗に多少なりとも影響を与えるものと考え、実施団体と協議を重ね、今年度においては、地域移行が進んだ軟式野球については生徒一人当たり年会費24,000円を、地域移行が進みつつあるサッカーについては生徒一人当たり半年分の年会費12,000円を徴収した。

実施団体の運営上の不足分については、余市町の単費予算をあてがいその全額をふるさと納税で賄っている。

今後の課題と対応方針

バスケットボールやバドミントンなどの種目は月数回の休日のみの活動であることから当面参加費用を求めない。

一方で、活動回数が多く、地域移行が進んでいる種目（軟式野球、サッカー）については年会費を徴収することとするが、収支バランスを考えると、現在の参加費用（軟式野球は24,000円、サッカーは12,000円）を大幅に超えることになるため、当面の間、余市町がその一部を助成することとしている。しかしながら、他自治体から参加している生徒も軟式野球クラブ、サッカークラブに居ることから、生徒の足の確保とともに参加費用負担についても自治体間で話し合うこととする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

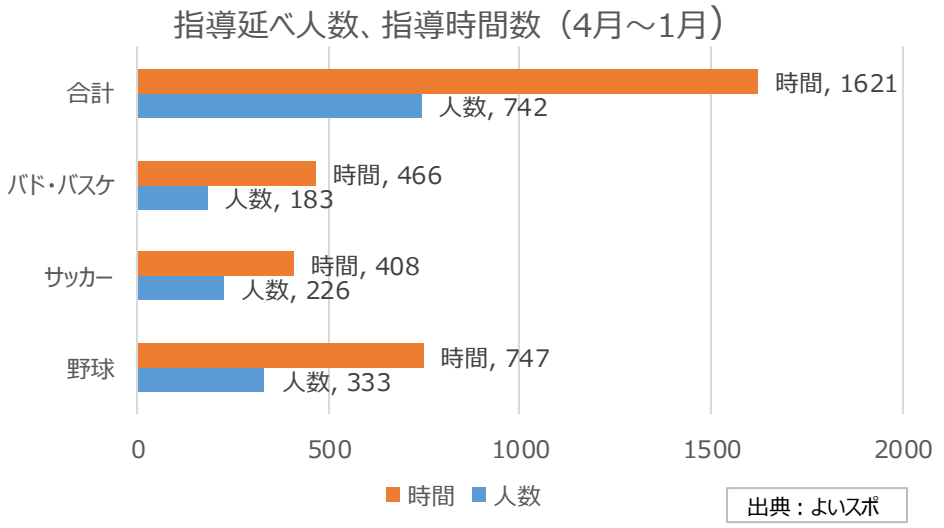
取組事項

・平日の町内の小中学校開放事業（18時～21時）の活用
・休日の小中学校の利用
・社会体育施設の利用

取組の成果

令和6年4月から7年1月までの10か月間で、地域部活動指導員が指導に当たった人数は延べ742人で総時間数は1,621時間となっており、そのほとんどが学校施設を利用している。このうち、平日の地域部活動は延べ432人、909時間で休日は延べ310人、712時間であり、休日の部活動の地域移行だけではなく平日の地域移行も一定程度進んでおり、学校教職員の負担もその分だけ軽減になっている。

野外で活動している軟式野球については、他の競技団体と競合することで活動場所の確保が課題ではあるものの、町が所管している社会体育施設を借り入れる場合は減免措置を講じることができた。



今後の課題と対応方針

学校開放事業は、町内他団体の利用も多く、またグラウンドが使用できない冬季間はその調整にかなり労力を要した。

また、休日の小中学校の利用については、学校によってはセキュリティの関係から学校関係者（多くは部活動顧問の教員）が立ち会う場合があるため、何らかの対応を学校側と協議していく。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

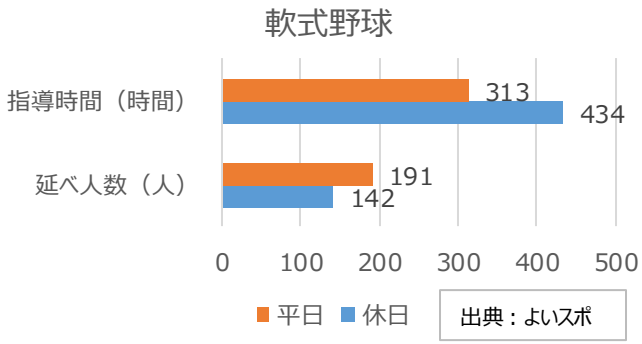
取組事項

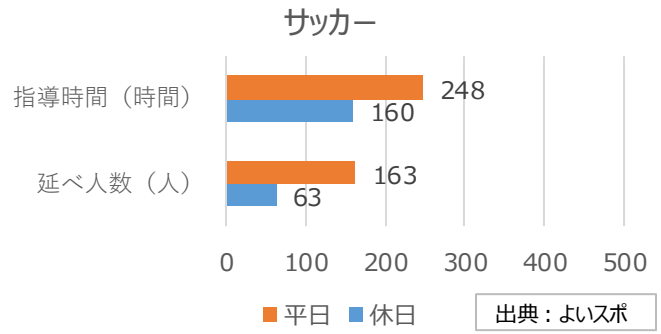
一部種目の平日の地域クラブ活動への移行

取組の成果

地域クラブ活動のうち、軟式野球とサッカーについては実施団体（よいスポ）に指導員が多く在籍（野球6名、サッカー7名）しており、休日のみならず平日においても各指導員が都合をつけて生徒の指導が実現できた。

多人数による団体競技の軟式野球やサッカーにおいては近年の少子化の影響で町内の各学校が単独校でチームを組むことが難しく中体連等の大会に参加できない状況が続いていたが、地域クラブ活動の中体連参加条件が緩和されたことから、近隣町村の生徒も加えたクラブチームで大会参加が叶い、生徒は大きな目標に向かって日々の練習に励む姿が見られた。





一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

指導方法・指導方針については、生徒個々の性格等を最も把握している部活動顧問と地域指導員が常時打合せを行っている他、学校長、部活動顧問、コーディネーター、地域部活動指導員の4者で適宜情報共有をしている。

また、指導者間でその指導方法に差異が無いように指導者会議で調整を図っている。

今後の課題と対応方針

練習場所の確保が課題となっている。町内の学校開放事業や社会体育施設等のキャパシティが限られているため、今後、近隣の他自治体の施設の利用も検討していく。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

余市町内に「子どもたちのスポーツ活動及び普及に寄与する」NPO法人『よいスポ』が活動していることもあり、令和５年度から国の実証事業を受託している。この間、学校側の協力（兼業兼職職員、施設利用への配慮等）や、保護者の理解、他団体との調整などもあって下表のとおり事業を拡大することができた。

当初は、実施できる種目で休日の部活動から開始したが、現在は、一部種目では平日の地域移行も進み地域クラブとして中体連の大会参加も叶い大きな成果が得られたこと、また、生徒の希望や教職員の働き方改革にも一定程度寄与できたものと推察している。

		R5年度	R6年度(1月まで)
種目数		3	5
		軟式野球	軟式野球
		サッカー	サッカー
		女子バスケ	女子バスケ
			男子バスケ
			バドミントン
指導員数		11	20
指導時間	平日	435	714
	休日	667	907
	計	1,102	1,621

●成果の評価

・令和5年度の3種目に6年度は2種目加え地域指導員も増強した中で事業を実施したことから休日の生徒の参加が増え、充実した活動を行えた。

・軟式野球については、地域移行が達成され地域部活動として初の中体連大会に出場できたことで、中学校に希望の部活動がない場合であっても、練習や大会参加ができる良い見本となっている。また、サッカーについても来年夏以降に完全に地域移行する予定である。

・一方で他のクラブについては、平日は学校部活動、休日に地域部活動という形はとっているが、指導者の量、質ともに足りずに兼業兼職の教員に頼っている状況であり、早急な指導員の確保が課題である。

・生徒の移動のために実施団体が車両を確保したことは生徒の参加意欲の向上に大きく寄与している。

●今後に向けて

・次年度にさらにクラブ数を増やす予定であり、練習場所の確保等についてこれまで以上に他団体への働きかけを行っていく。

・兼業兼職の教員は異動があることから早急に指導者の確保（特に有資格者）のため様々な募集方法を模索していく。

・何よりも、実施団体が現状は町に依存しているため、受益者負担も含め、持続的なクラブ運営が可能となるような仕組みづくり（キャッシュフロー）を町も関わり合いながら確立していく。

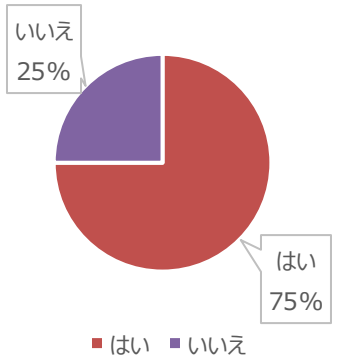
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

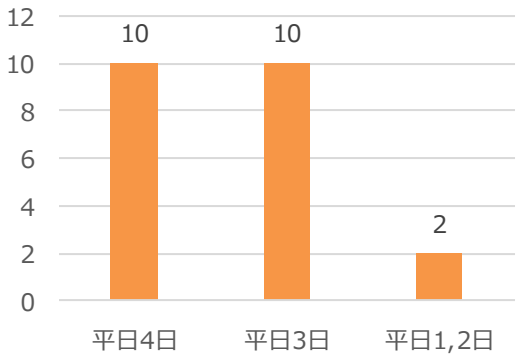
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（出典：よいスポ）

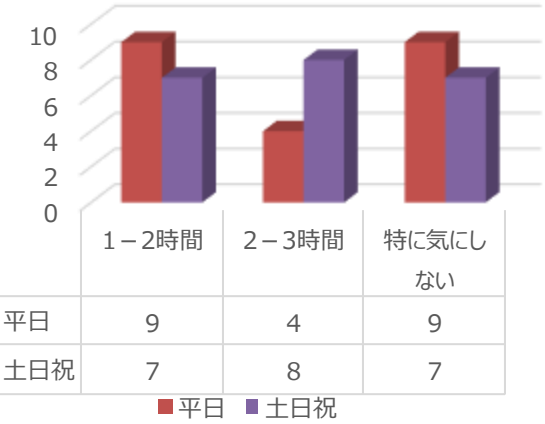
Q1　あなたが所属しているクラブ競技は、小学生の時から続けていますか?



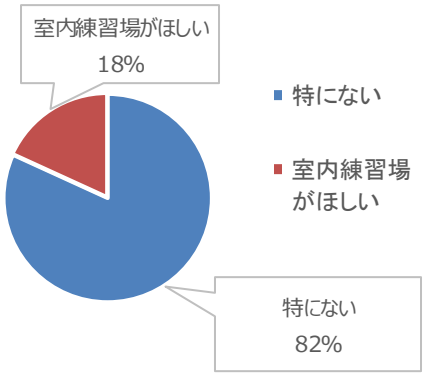
Q2　クラブ活動の頻度はどのくらいが適正だと思いますか？



Q3　クラブ活動の時間はどのくらいが適正だと思いますか？



Q4　現在のクラブ活動について、意見・要望を記入してください。



●参加者の声

中学２年生　軟式野球クラブ　Y.Y君
ブルータスがあるおかげで、野球を続けることができました。余市西中には野球部がなかったので野球は続けられないと思っていました。野球を続けられて本当によかったです。中体連大会の北海道大会出場を目指して頑張ります。

中学１年生　FC余市　U-15　K.U君
中学校からサッカーを始めましたが、他校の友達もでき練習に行くのが楽しみになりました。少しでも早くうまくなれるように頑張りたいと思います。

保護者　Sさん
夫婦仕事で帰りが遅いため、土日の試合や平日の送迎をしていただき大変助かります。ありがとうございます。

指導者　地域部活動指導員（教員）
事務局が中心となり選手や保護者ともコミュニケーションをとりながら円滑に運営をしていただいており感謝しています。選手たちも他校の生徒達とコミュニケーションをとりながら精力的に活動しているように見えます。

2.実証内容と成果③

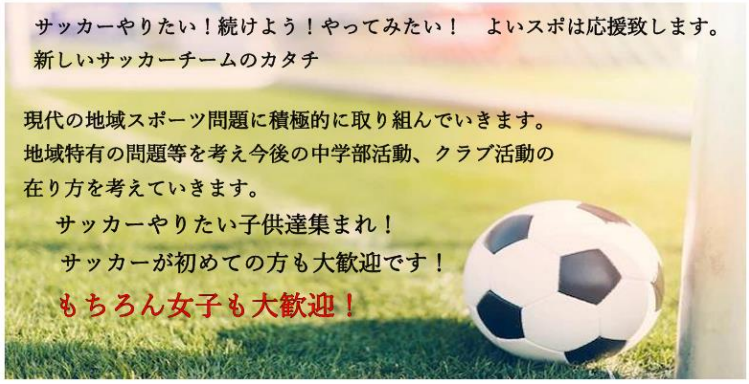
スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

広報チラシ

出典:よいスポ

NPO 法人よいスポ FC 余市 U15



主　　催：NPO 法人よいスポ　FC 余市　U15
場　　所：余市総合体育館　余市陸上　旭中学校 G　黒小体育館
日　　時：平日 2～4 回　夕方～夜間　土日大会等参加
対　　象：中学生男女
　　プロを目指す子から、趣味で楽しむ子まで幅広いメンバーを
　　地域コミュニティーとの強い結びつきで応戦します。
　　勝利だけでなく、スポーツマンシップも重視
　　サッカー経験は問いません、チームとして協力し合える方
申込方法：メール、クラブ公式ライン、電話
※何時でも体験可能です。先ずはご連絡ください。
※開催場所や曜日が変更になる場合も御座いますので、下記へ確認ください。

お問い合わせ/申込先

NPO 法人よいスポ　〒046-0003　北海道余市郡余市町黒川町 885-1
電話：0135-48-5867　FAX　0135-48-5868
Eメール：horikawa69@kb4.so-net.ne.jp
サッカー事業　担当：堀川　携帯 090-4873-1259

保護者アンケート

出典:よいスポ

Q1　スポーツ庁から勧められている「部活動地域移行」について
- よく理解している　・・・　0%
- 理解している　　・・・44%
- 聞いたことがある　・・・56%
- まったくわからない　・・・　0%

Q2　クラブ活動費（月会費）はどのくらいが妥当だと思いますか？
- 1,000円～2,000円　・・・55%
- 2,000円～3,000円　・・・36%
- 3,000円～4,000円　・・・　9%
- 4,000円～5,000円　・・・　0%

Q3　土日祝にクラブ活動拠点（町内・町外）への送迎は可能ですか？
- ほぼ可能　　・・・55%
- 毎回は無理だが可能　・・・36%
- 送迎は難しい　　・・・　9%
- その他　　・・・　0%

Q4　地域クラブ活動へ求めることは何ですか？
- 子供の移動や活動時間帯に関して通学先の学校部活であれば安心・安全であるが、移動が広範囲となり学区外でもあるため安全な配慮をお願いしたい。
- 子供の人間関係の構築や成長の過程であることを踏まえて、指導者に定期的研修等を受けていただきたい。
- サッカーグラウンド、野球場などの環境の整備をしてほしい。

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



ブルータス（軟式野球）室内練習



ブルータス（軟式野球）練習後の総括指導



サッカーFC余市　練習前】



サッカーFC余市　ハーフタイム風景



Do-STARTプレイボールイベント参加風景



Do-STARTプレイボールイベント参加風景

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和３年	令和４年		令和５年		令和６年
検討開始	学校現場との調整 受け皿団体や指導者の選定	学校現場との調整 生徒、保護者への説明	学校現場との調整 受け皿団体の決定	地域クラブ活動の開始	地域クラブ活動の拡大

令和３年度

●町内中学校への現状調査

校長会より部活動地域移行の今後に向けて協議を開始。

地域運動部活動推進事業に向け、町内中学校の部活動の実態を把握。

●アンケート調査

現状の部活動種目・部活動数・人数等のアンケート調査を実施。

また、地域移行へ向けた教員への指導希望調査や指導体制についての聞き取り調査を実施し部活動の地域移行に向けた準備を開始する。

令和４年度

●連絡会を設置

地域部活動指導員による指導の取り組み状況の共有及び今後の地域部活動への移行に向けた検討などを行うために、関係者との連絡会を開催。

●実施に当たって生じた課題

・部活動と地域部活動との指導体制

スポーツの種類によっても人材確保に関わる状況は大きく異なる。地域内で指導に携われる人材を探そうとしても特定のスポーツでは適切な人材が見つからないこともある。

・地域部活動に参加した場合の経費

地域移行が進むと、部活動が地域のスポーツクラブや民間企業などに移行されるため、移行先への会費等負担が大きい。

・関係者との連絡調整等

令和５年度

●運動部活動地域移行に向けた実証事業を開始

●NPO法人よいスポへ委託

軟式野球、サッカー、女子バスケットを地域移行に向け実証。

●実施に当たって生じた課題

学校外への移行という、これまでとは異なる形で行われる活動に対して、交通手段の確保が課題。

●実施内容、工夫した点　等

学校開放事業を活用し、18時以降に活動した。

試験的に送迎車両及び運転手をよいスポが整備し、平日の学校間の送迎を実施した。

令和６年度

●運動部活動地域移行に向けた実証事業を継続

●経過

新たに男子バスケット、バドミントンを加え実証事業を拡大実施。

●実施にあたって生じた課題

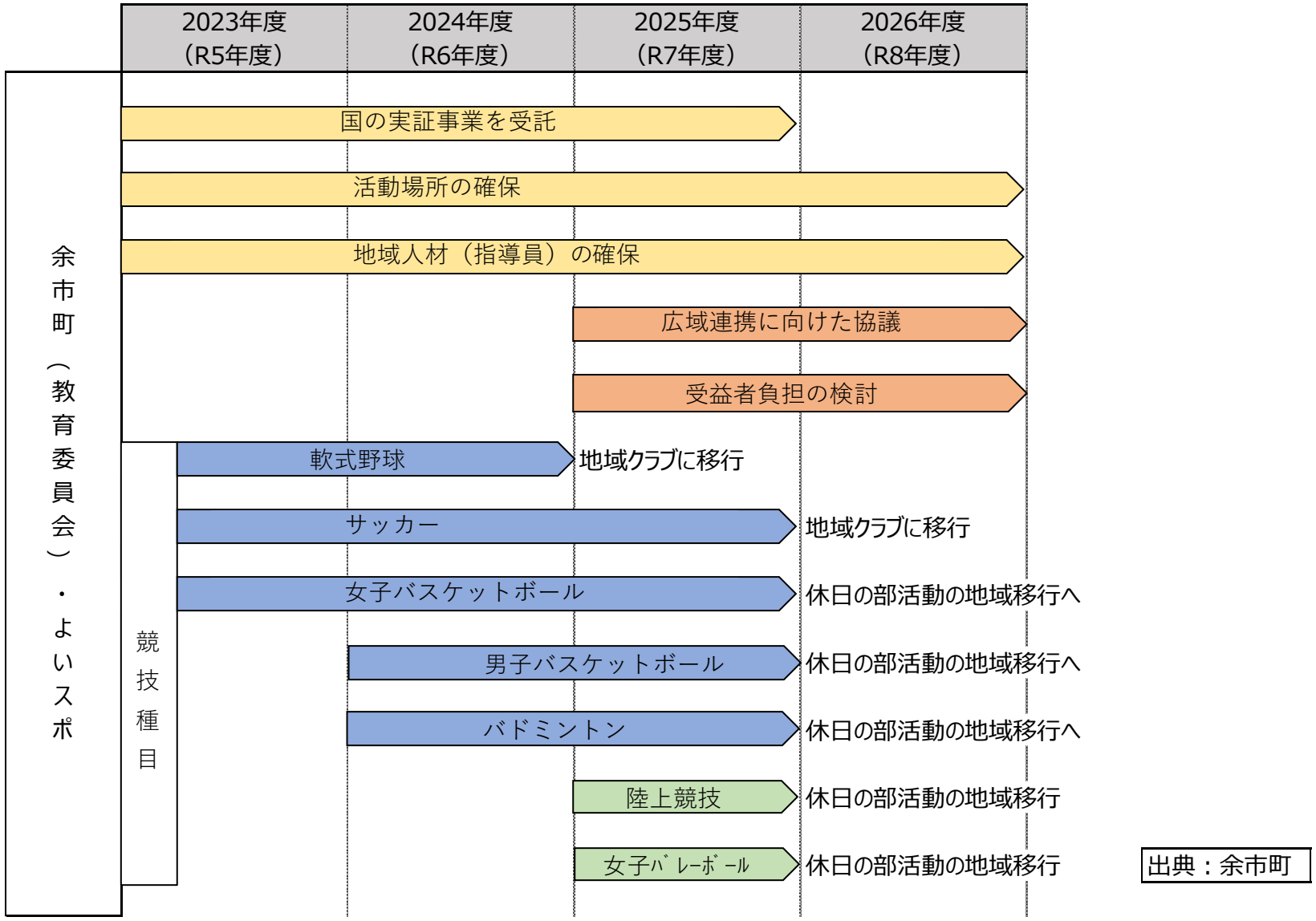
参加生徒数の増加による交通手段の確保、用具類の運搬に時間が割かれる。

●実施内容、工夫した点 等

リース車両の大型化・乗り合いにより移動手段を確保するとともに、競技用具の保管場所を練習場所近傍に得られた。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



出典：余市町